

## 目標達成計画

作成日：平成 29年 11月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	【和らぎ歓び】 身体拘束について、普段していないからこそ、何が拘束になるのか気付かず、結果的には拘束となっているかも知れない。	意識して身体拘束とならない介護、支援ができるようにしていく。スピーチロックにならない様、正しい声掛けができるようになる。	自分では気が付かないと思うので、注意し合えるようなスタッフの関係作りをする。また、身体拘束の研修を年に一度は行い、事例を挙げて話し合う。	12ヶ月
2	33 ・ 34	【歓び】 利用者の平均年齢が91歳で、転倒や離設など、認知症の進行や加齢とともに、怪我や病気の重度化や急変も常に考え、対応や体勢を整える必要がある。	一日一日を大切に、安全に安心した生活を送って頂けるよう支援していく。また、急変時に慌てないよう、緊急時マニュアルを基に対応ができるよう全職員が把握しておく。	個々の日常(バイタルサインや動静)を知り、小さな異常にも気付くようにし、情報を共有し、報連相ができるようにする。また、家族との連携も密にとり、急変時の相談をしておく。ひやりはつとや事故報告などでその都度改善策を考える。	12ヶ月
3	37 ・ 48	【和らぎ】管理者をはじめ、職員の入れ替わりが多かった為、利用者さま・ご家族さまに不安な思いをさせてしまった。ご利用者さま一人ひとりとしっかり向き合い信頼関係を再構築していく必要がある。	利用者さまが安心して生活ができるようにする為に、相手に寄り添ったケアを行い、信頼してもらえるような声掛けや環境づくりを行う。	職員間での情報共有をしっかりと行っていき、統一したケアを行っていく事で信頼してもらう。ご家族さまの面会時には、日常の様子をしっかりと伝えながら、ご利用者さまの生活歴などをお聞きしてケアに活かしていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。